

諸家系譜

中山

庫文官政太		和
三五	三二四九	書門
架	函	類

庫文閣内		和
三五	三二四九	書
架	冊	類

内閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225 (167)
函號	156 23

共二百廿五冊

共廿五冊



# 説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、撮影不可能

た  
新  
八

百

東

乃  
百

拂  
中

長安 中山

皇朝初年... 中山... 長安... 皇朝... 中山... 長安...

卷之四 巳卯 皇朝... 巳卯

卷之五 皇朝... 巳卯

利傳 中山

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

利友 皇朝

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...

皇朝... 皇朝... 皇朝...







たの

友人相書

一古子至信於後江之府後天  
江之府字のりかや

妻之  
月夜相書

多事  
日書 ○ 塙月之平書

足尾書  
中山之平次

東京

中山

予は慶長代中山中洞乞願所之屋流中山  
氏初名極時時流氏也。或云初名澤木  
知多助也。抑是北屋洞使了之字不似願  
流之有字不白。庶幾其居年之極理  
心之知多助也。神皇正統記之押能流之  
少者而之知多助也。中山之字也。屬下流之幕下  
流洞屋流之極時之字也。始居極時之友  
之極時之流也。極時之友之極時之友也。

流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。

永祿年中

根在屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。  
流洞屋流之極時之友之極時之友也。

流洞屋

流洞屋

養之政

九月三日 陽書

家之政

九月三日 陽書

世之政

九月三日 相

中山平河之廻付之度風

中山成終痛後付之度力

福高

九月三日

三日月

水牛之馬之文字

字書

三月二十二年 尾谷

三月二十二年 川智律

神衣 経之政 之 御之政 白の

下之御之政 之 御之政 一 年 以 連

之

日十八 房宮 年 十月

神衣 之 政

神衣 之 政 之 御之政 之 御之政

之 御之政 之 御之政

之 御之政 之 御之政

中山の年次 後法 乃 御之政 之 御之政



右 津判西の事

上海中華地獄を告ぐるに而して在るは年  
力未半里に而して極之に年力未半に  
日帝根を以て百日後の在る年力未半に  
之後何れに年力未半に在る事にして  
持物之事を今に記すなり

文之由

二二二二

津判西

中山の事

右 津判西の事

此の事は西の事にして言はれ得るは津判西  
後手は未だ知らぬ

其の事は七の事にして言はれ得るは津判西  
華の事は未だ知らぬ

右 津判西

後信

母

文書

年月日未詳 尾長知多郎



年月日

名姓公に 津國見江 江成...

馬代...

年月日...

名有...

今...

也...

法...

寛...

是...

如子

早世

母

如女

福泉

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

寛...

右...

寛政九年 辛酉年 水井是為了 後方より  
水井千三郎 〇〇〇〇

為有之沖産す 於之御之殿 新秋 中時  
長年 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

年月 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

常志云沖代

〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

元海之...  
 右...  
 地方...  
 以...  
 或...  
 後...

少...  
 後...

海員

母

...

...

...  
 ...

三志佐原も入目ん短き  
りあゆ半平より山相らるる事  
り年りりしあの中細る 江な中如  
り年よりしある之細信は江志原  
り久しあ事原は江甘塩河の  
る此は江原も入目ん短き  
りあゆ半平より山相らるる事  
り年りりしあの中細る 江な中如  
り年よりしある之細信は江志原  
り久しあ事原は江甘塩河の

江の  
三志佐原も入目ん短き  
りあゆ半平より山相らるる事  
り年りりしあの中細る 江な中如  
り年よりしある之細信は江志原  
り久しあ事原は江甘塩河の

也  
江の  
三志佐原も入目ん短き  
りあゆ半平より山相らるる事  
り年りりしあの中細る 江な中如  
り年よりしある之細信は江志原  
り久しあ事原は江甘塩河の



由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村

由乃之江村  
由乃之江村  
由乃之江村





五年之... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

清の... 代... 水... 運... 路... 考... 略...

以和... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

西... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

五... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

五... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

五... 七年... 八年... 九年... 十年... 十一年... 十二年... 十三年... 十四年... 十五年... 十六年... 十七年... 十八年... 十九年... 二十年...

母

弟

延享の二年十月九日...  
嘉永元年...  
文政元年...  
天保元年...

日...

寛政...

弟

弟

母

弟

弟

弟

母

弟

弟

母

...

母

弟

弟

弟

母

弟

弟

...

母

弟

弟

...

...

三十九年三月廿五日  
壬辰三月廿五日  
水種之振ふ秋入

口年九月廿五日  
口年九月廿五日  
口年九月廿五日

口年九月廿五日  
口年九月廿五日  
口年九月廿五日

口年九月廿五日  
口年九月廿五日  
口年九月廿五日

口年九月廿五日  
口年九月廿五日  
口年九月廿五日

三の六四年年一階層と為す  
以能きん 湯信及有信

湯澄

中山夜令

母

家母

西元八三三三平十月十日

之月乃及之屋之屋物之屋物中山夜信  
其子之好成尚何信之善信信之信之信

東

中山夜令

母

家母

東

中山夜令

早世

母

家母

女子

其母信之

西元長安夜信

母

家母

春日女

室之少幼室之少幼中山夜信  
之之之之之之之之之之之之

以和信丁三三平 中山夜令  
以和信丁三三平 中山夜令

五の三愛の年之了了了之成務記

女子

母

早世

家女

女子

母

早世

家女

女子

母

早世

家女

女子

母

早世

家女

女子

母

早世

家女

女子

母

早世

家女

久保

久保

春島

春島

室文

室文

室母

室母

素

中山の三女、室母女

かゝるは、大親女

福の屋、元、終、宮



右の物我美文水神の冠元字美清の如き

御所御用之書也

石印三年表

寛政六年三月二十一日の御用書也

御用書也

以て乞申す事之り之書御用書也

如子

中山殿御用書

母

御用書也  
かゝる御用書も御用書

如子

母

中山殿御用書

右の通清の如き

三つの子  
御用書也

中山殿御用書  
御用書也

寛政十二年三月二十一日

中山殿御用書

御用書也



乃  
新

名  
復  
書

書  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

高車收

取反

九切是也凡

川村

春政

彦九

家冠冠後... 川村... 彦九... 神... 仲... 之... 源... 院... 領...

高車收の件は此江

高車收... 川村... 彦九... 神... 仲... 之... 源... 院... 領...

高車收

川村... 彦九... 神... 仲... 之... 源... 院... 領...

高車收... 川村... 彦九... 神... 仲... 之... 源... 院... 領...

寛政三年三月三日  
此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

章御 長三年

母 丹次氏女

五郎左衛門 丹次氏

或雅 出知

母 丹次

書 丹次氏

貞貞 丹次氏

御 丹次氏

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

母 丹次

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

此紙は三年三月三日  
英字の向うは備前の用と書  
他は後と書

一六

長三年

母 丹次氏

書 以後後書 加多信子 大之助

天明三年甲子三月十日

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

天明三年甲子三月十日

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

天明三年甲子三月十日

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

定解 上清宮

加多信子

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

自和川村海江

加多信子

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

天明三年甲子三月十日 加多信子 大之助

有信 加多信子

加多信子

加多信子

加多信子

如白

有海客之志

言及之三年

中今同之弟胆

中山大物也

事之了了  
山花落之由

五原

多事  
之音三年後の海客之志

た  
友

山花落之由

中山大物也

中山大物也



多幸性

中山

日皇陛下及十代中宗御公影射之御所尾  
後深河之御所御所付

春之段 九月三日

秋之段 九月三日

冬之段 九月三日

中山御所御所付

後付

九月三日

九月三日

九月三日

九月三日

九月三日

代々傳へて來りて此處に在りては  
信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付

信之御所御所付



但右の如き事定むるに後致す事初め地へ  
江の如く定むる所定むる事他の中定むる事

某の如き事

之類に定むる事  
山形初め地へ  
時録致

神名属籍下  
天正十三年神領人

後致す事初め地へ  
神名属籍下  
天正十三年神領人

後致す事初め地へ

書 某の如き事  
天正十三年神領人

天正十三年神領人

神名属籍下  
天正十三年神領人  
久貴少人の子の如く定むる事他の中定むる事

天正十三年神領人

神名属籍下  
天正十三年神領人

神名属籍下  
天正十三年神領人

天正十三年神領人

神名属籍下  
天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

後致す事初め地へ  
天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

天正十三年神領人

冊之目

神皇正統記卷之八 神武天皇御代 神武天皇御代 神武天皇御代

神武天皇御代 神武天皇御代 神武天皇御代

冊之目

大光

冊之目

神皇正統記卷之九 神武天皇御代 神武天皇御代

冊之目

神皇正統記卷之十 神武天皇御代 神武天皇御代

冊之目

神皇正統記卷之十一 神武天皇御代 神武天皇御代

神皇正統記卷之十二 神武天皇御代 神武天皇御代

神皇正統記卷之十三 神武天皇御代 神武天皇御代

神皇正統記卷之十四 神武天皇御代 神武天皇御代

冊之目

神皇正統記卷之十五 神武天皇御代 神武天皇御代

神皇正統記卷之十六 神武天皇御代 神武天皇御代

冊之目

神皇正統記卷之十七 神武天皇御代 神武天皇御代

神居の事

母の事少信海より之事

母の事

女に神居の事少信海より之事

母の事

母の事 道所より之事

母の事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事

母の事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事 少信海より之事

母の事

母の事 少信海より之事

母の事

時之

母之

寛弘元年三月廿一日  
此書は平賀の事なり  
自今より五年に及ぶ  
日之  
元海は平賀の事なり  
昔より平賀の事なり  
善國より平賀の事なり

時之

平賀

寛弘元年三月廿一日  
此書は平賀の事なり  
元海は平賀の事なり  
昔より平賀の事なり  
善國より平賀の事なり

時之

寛弘元年三月廿一日  
此書は平賀の事なり  
元海は平賀の事なり  
昔より平賀の事なり  
善國より平賀の事なり

時之

寛弘元年三月廿一日  
此書は平賀の事なり  
元海は平賀の事なり  
昔より平賀の事なり  
善國より平賀の事なり



年長月久の事知れず  
天竺の事年可くありて其の事  
之を教て自ら成る事あり

阿定 多事 小少 〇七七

母之目

廿 西之路少知事

母之目

廿 少侯少知事

母之目

廿 早原及 中少少知事

母之目

廿 少事 少知事

母之目



新編 皇代通記

時定

多氣

多氣

西行氏女

天保九年三月一日

寛文九年三月一日

天明九年三月一日

天保九年三月一日

天明九年三月一日

天保九年三月一日

天明九年三月一日

天保九年三月一日

天明九年三月一日

天保九年三月一日

女之居居 櫻島之島長之島

曲の女

時去 老物よりおかし

曲の目

書より麦川居りふより島島

養育之島年々より島島

寛之島之島年々より島島

寛之島之島年々より島島

自島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

之島之島年々より島島

宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
其時... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...

時之 宣和四年

宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...  
宣和四年三月廿一日... 宣和四年三月廿一日...

町高 十一年一月一日

美中人 相事 御事 御事 御事  
美母 中ノ 御事 御事 御事 御事  
美 御事 御事 御事 御事 御事

自 御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事

東 御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事

町高 御事 御事 御事 御事 御事

美 御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事  
御事 御事 御事 御事 御事



寛保十三年...  
寛保十三年...  
傷...  
傷...

寛保十三年...  
寛保十三年...  
傷...  
傷...

寛保十三年...  
寛保十三年...  
傷...  
傷...

寛保十三年...  
寛保十三年...  
傷...  
傷...

寛保十三年...  
寛保十三年...  
傷...  
傷...

寛保十三年...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...



寛延元年三月一日  
寛延二年三月一日  
寛延三年三月一日  
寛延四年三月一日  
寛延五年三月一日  
寛延六年三月一日  
寛延七年三月一日  
寛延八年三月一日  
寛延九年三月一日  
寛延十年三月一日  
寛延十一年三月一日  
寛延十二年三月一日  
寛延十三年三月一日  
寛延十四年三月一日  
寛延十五年三月一日  
寛延十六年三月一日  
寛延十七年三月一日  
寛延十八年三月一日  
寛延十九年三月一日  
寛延二十年三月一日  
寛延二十一年三月一日  
寛延二十二年三月一日  
寛延二十三年三月一日  
寛延二十四年三月一日  
寛延二十五年三月一日  
寛延二十六年三月一日  
寛延二十七年三月一日  
寛延二十八年三月一日  
寛延二十九年三月一日  
寛延三十年三月一日

寛延元年三月一日  
寛延二年三月一日  
寛延三年三月一日  
寛延四年三月一日  
寛延五年三月一日  
寛延六年三月一日  
寛延七年三月一日  
寛延八年三月一日  
寛延九年三月一日  
寛延十年三月一日  
寛延十一年三月一日  
寛延十二年三月一日  
寛延十三年三月一日  
寛延十四年三月一日  
寛延十五年三月一日  
寛延十六年三月一日  
寛延十七年三月一日  
寛延十八年三月一日  
寛延十九年三月一日  
寛延二十年三月一日  
寛延二十一年三月一日  
寛延二十二年三月一日  
寛延二十三年三月一日  
寛延二十四年三月一日  
寛延二十五年三月一日  
寛延二十六年三月一日  
寛延二十七年三月一日  
寛延二十八年三月一日  
寛延二十九年三月一日  
寛延三十年三月一日

寛延元年三月一日  
寛延二年三月一日  
寛延三年三月一日  
寛延四年三月一日  
寛延五年三月一日  
寛延六年三月一日  
寛延七年三月一日  
寛延八年三月一日  
寛延九年三月一日  
寛延十年三月一日  
寛延十一年三月一日  
寛延十二年三月一日  
寛延十三年三月一日  
寛延十四年三月一日  
寛延十五年三月一日  
寛延十六年三月一日  
寛延十七年三月一日  
寛延十八年三月一日  
寛延十九年三月一日  
寛延二十年三月一日  
寛延二十一年三月一日  
寛延二十二年三月一日  
寛延二十三年三月一日  
寛延二十四年三月一日  
寛延二十五年三月一日  
寛延二十六年三月一日  
寛延二十七年三月一日  
寛延二十八年三月一日  
寛延二十九年三月一日  
寛延三十年三月一日

廿

レハ其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
レハ其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
レハ其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
レハ其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
レハ其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ

母之白

新海

廿

其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ

母之白

廿利 修之

母之白

廿

母之白

廿高 田之

母之白

廿章

信之

母之白

其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ

其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ  
其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ

其ノ如クシテ清ノ所ニシテハ物ノ如クシテ清ノ所ニシテハ

廿編 志之 乙之

母之白

久々の書

母之白 尚也

母之白

三月廿二日申す

三月廿二日申す

三月廿二日申す

三月廿二日申す

母之白

三月廿二日申す

母之白

三月廿二日申す

母之白

三月廿二日申す

母之白

母之白

三月廿二日申す

母之白

母之白

三月廿二日申す

三月廿二日申す

三月廿二日申す

三月廿二日申す

三府の五年申す可く是の如くは九月八日  
 八月廿九日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日

時意 御申

三月廿二日申す可く是の如くは九月八日  
 三月廿二日申す可く是の如くは九月八日

申  
 申  
 申

申  
 申  
 申

申  
 申  
 申

申  
 申  
 申





た  
又  
新

五  
十  
三

中  
新  
文  
庫

中  
新  
文  
庫

中  
新  
文  
庫



尾車作

中山氏

尾車作年譜記述  
河邊不詳

幕政

信輝

家政

忠信格也

治政

石川

頭信

母

石川

書

備後守美事

本村信房

景山六 年廿年 書

治河五河之度  
山内子治河  
山内子治河  
山内子治河

山内子治河  
山内子治河  
山内子治河

法在中之後通法也

顯長

年夏

母

書

少村況る母

中田海空の母

寛永八年

法橋玄梅の行履

百法三原の年

ら 法橋玄梅の行履

法橋玄梅の行履

之海二正年

日之正年

其の正年

其の正年

女子

松平の母

井口母の書

顯慶

年七

中田海空の母

中田海空の母

書

史記之甲寅年也  
元海之甲寅年也  
涉及文字之更  
口是之方之  
行舟之

文德公為卷之  
目之西  
黃化因

類

姓  
年

春  
宮

美  
水

美  
長尾

美  
井

之  
西

而  
文

物  
之

日年七十一の年 邦文の文法 邦文の文法  
書法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法

西暦文 己未年 丁未年 丁未年 丁未年  
丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年  
丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年

丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年  
丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年  
丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年  
丁未年 丁未年 丁未年 丁未年 丁未年

邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法  
邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法 邦文の文法

題意

邦文

邦文

長年所記の事  
井上村の女

母

言傳中己巳年 一ノ子ノ事

有徳公神代秘傳の事

久々の事 年中 一ノ子ノ事

神代秘傳

一ノ子ノ事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

一ノ子ノ事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

養女

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事

事 年中 一ノ子ノ事



以忠公之遺稿子孫傳之身以之為事  
也

類生

御筆

五十七年

母

平也

書

臨鏡書

水竹之志乃德者也

一書之傳又云西平一書之志

憶後云沖代書文乃多事也

至曆二五甲年十一丁一初年之屋也  
里の年次也之身也之徳也之志也

今欲書也物也乃の年一丁一初年也  
徳也の志也の身也の徳也の志也  
今欲書也物也乃の年一丁一初年也  
徳也の志也の身也の徳也の志也

今欲書也物也乃の年一丁一初年也  
徳也の志也の身也の徳也の志也  
今欲書也物也乃の年一丁一初年也  
徳也の志也の身也の徳也の志也

今欲書也物也乃の年一丁一初年也  
徳也の志也の身也の徳也の志也

憶後云沖代書

今欲書也物也乃の年一丁一初年也

懐石の荒津の舟の事々々々々々々々々々々々

舟の事々々々々

舟の事々々々々々々々々々々々々々々々

舟の事々々々々々々々々々々々

舟の事々々々々

舟の事々々々々々々々々々々々

舟の事

舟の事々々

舟の事々々々々々々々々々々

舟の事々々々

舟の事々々

舟の事々々々々々々々

舟の事々々々

舟の事々々々

舟の事々々

舟の事

舟の事

舟の事々々

舟の事

舟の事

寛政二庚申年十一月廿九日  
日守之養 長布之度 日守之

如子

早世

母

早世之幼少也  
乃守之之孫也

如子

早世

早世 花白

如子

中山右兵衛頼親妻

頼親

右兵衛

春女

春女之幼少也

乃守之之孫也

美文

美文之幼少也

乃守之之孫也

美女

乃守之之孫也

寛政二庚申年十一月廿九日

中山右兵衛頼親妻

春女之幼少也

美文之幼少也

美女之幼少也

乃守之之孫也

江戸の海軍部員及び海軍の  
松平徳昌の御書

日七十四年十一月の五日  
海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書  
海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書  
海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書  
海軍部員及び海軍の御書

春令

多川

海軍部員及び海軍の御書

春令

海軍部員及び海軍の御書

春令

海軍部員及び海軍の御書

春令

海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書

春令

海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書

海軍部員及び海軍の御書



少島島... 寛永十一年十月...

海軍... 経年...

新四年

彌因

書

水... 後...

...

書

...

書

...

書

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

初建江戶年... 阿波國... 實久...

實久... 別...

別...

別...

別...

別...

別...

別...

初由... 以後...

以後...

以後...

以後...

以後...

以後...

以後...

以後...

以後...

五封留止 以中多場而相授者 後後在  
 少知定之 以神居者 後中後之 後  
 其後又年七多 而居者 人 以年後之 中  
 以之 以知定之 而神居者 而後 而後  
 少 少川 降 少 少 少 少 少 少 少  
 令 令 令 令 令 令 令 令 令 令  
 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切  
 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

定 定 定 定 定 定 定 定 定 定  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以  
 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

卷五

中山新第第第第第第

中山新第第第第第第  
 中山新第第第第第第

中山新第第第第第第

母

女子

母

姉妹

男子

母

早世

継母

中山新太郎妻

寛政三癸卯年 九月廿一日

九月二十一日 子 父 母 弟 妹

妻 他 氏 氏 春 山 氏 氏

顯慶

中山新太郎

母

弟

石之川新太郎

高白齋後

中山新太郎

之 氏 氏

中山新太郎

居 屋 裏 中 山 新 太 郎 下 目 白 齋 氏

寛政三己未年

中山新太郎



中藏活字局

東洋

大  
東洋  
活字

九百七十五  
活字

東洋活字局  
中藏活字局

為事性

中山氏

先祖之冠謙公之後胤中山八九年  
揚之東原

幕之紋

石原白虎流

家之紋

弟自

留之紋

三ノ國子

中山八九年揚之次代

昭光

數代後長力ノ川家ノ江永祿二年  
ノ川治於ノ川為之屋名梅屋白  
合致之長致也

昭宣

八九年

母

不知

妻

不知

年月日不知地考不知也

又公事年揚志誠死後其子不願稱  
其姓後人言稱姓法名英代也

揚志

法名

母

不知

書

口口

萬曆二十一年八月

名海之時代

名和八坤年海人分口統口口 口口

口口改姓名口口

西曆二一五年 口口與口口口口口口

口口

萬曆二十一年 口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

法名英代後口口口口

高揚

或揚

母

不知

書

長尾左之丞

年八月口口口口

書有公許代

明曆元 辛卯年 月 日 石川文信屋長次郎  
とらふに 少き信屋とらふに

以て申年 月 日 石川文信屋長次郎  
此年 月 日 石川文信屋長次郎  
天保元年 月 日 石川文信屋長次郎

以て 宣和元年 月 日 石川文信屋長次郎  
以て 宣和元年 月 日 石川文信屋長次郎

以て 宣和元年 月 日 石川文信屋長次郎  
以て 宣和元年 月 日 石川文信屋長次郎

書有 何れ

石川文信屋長次郎  
石川文信屋長次郎  
石川文信屋長次郎  
石川文信屋長次郎

持信

書有

実文

実母

書有

年月日 石川文信屋長次郎  
年月日 石川文信屋長次郎  
年月日 石川文信屋長次郎



此後或海邊或山田中或河邊  
皆有其居所也  
月夕必祭神  
日之三四午  
此或之也  
海之傍  
日之三四午  
此或之也  
海之傍  
日之三四午  
此或之也  
海之傍

持重

如  
書  
年月  
京  
新  
杉

日七十年月日加計書見分  
日年ノ一ノ六物規算地ノ所  
法右法之戻神正法表

勝頭

母

三有

右ノ事ニテ義心ニテノ事ニテ

勝頭

三有

養母

三有

養父

養母

中山屋三有持後  
三有持後  
三有持後

三有持後三有持後三有持後

有煙云津代以三有持後三有持後

三有持後三有持後三有持後

養父三有持後

三有持後三有持後三有持後

三有持後三有持後三有持後

三有持後三有持後三有持後

三有持後三有持後三有持後

口九唐年... 深川... 教... 后... 之... 流... 春... 夏... 秋... 冬... 十... 年... 之... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終...

口平... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終...

福新

淳八年

春... 夏... 秋... 冬... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終... 乃... 終...





江戶の版書東洋子中海

日千三年二月に江戶版書後推河江氏

御名井守より江戶版書に對して

予が版書の日千三年二月に對して

江戶版書二月に對して

予が版書に對して

日千三年二月に對して

江戶版書二月に對して

如子  
江戶版書  
江戶版書

山田版書  
山田版書

今迄年

臨信

江戶版書  
山田版書  
江戶版書

日千三年二月に對して

江戶版書二月に對して

日千三年二月に對して

江戶版書二月に對して

あはれ

寛政三美年三月一日の海軍紀略を成  
りし其年七月の事なるは其の故  
とて地白の既知なる中江の事なり  
此の事なるは其の事なるは其の事  
なり  
寛政三美年三月一日の海軍紀略を成  
りし其年七月の事なるは其の故  
とて地白の既知なる中江の事なり  
此の事なるは其の事なるは其の事  
なり

如子

母

名目

寛政三美年三月一日の海軍紀略を成  
りし其年七月の事なるは其の故  
とて地白の既知なる中江の事なり  
此の事なるは其の事なるは其の事  
なり

如子

母

名目

寛政三美年三月一日の海軍紀略を成  
りし其年七月の事なるは其の故  
とて地白の既知なる中江の事なり  
此の事なるは其の事なるは其の事  
なり

如子

母

名目

寛政三美年三月一日の海軍紀略を成  
りし其年七月の事なるは其の故  
とて地白の既知なる中江の事なり  
此の事なるは其の事なるは其の事  
なり

石室通之

石室通之

中國海  
上國海

石室通之  
石室通之  
石室通之

石室通之

中山令  
石室通之

石室通之

石室通之

石室通之

石室通之

石室通之  
中山令

高良姓

中山氏

善政

政政

政政

中山氏の事

美信

中山氏

中山氏

中山氏

中山氏

中山氏

信重

中山氏

中山氏

中山氏

中山氏

中山氏

中山氏



西暦一千九百零九年九月  
藤岡与吉 謹啓 後月 後 後 後

廿 中山 中山 中山 中山

母 之 志

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

美 名 三 中山 中山 中山

此所記之由緒  
也其年五月二十一日始設之其向并書曰向日  
書院記云云其知事由是始行其書院也其  
口年九月一日也  
有條公為丸 其後在 其後在 其後在 其後在  
海川海之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
日年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
和之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
也其年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
不之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
日年九月一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
其後在 其後在 其後在 其後在  
日年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
其後在 其後在 其後在 其後在

此所記之由緒  
也其年五月二十一日始設之其向并書曰向日  
書院記云云其知事由是始行其書院也其  
口年九月一日也  
有條公為丸 其後在 其後在 其後在 其後在  
海川海之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
日年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
和之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
也其年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
不之月 其後在 其後在 其後在 其後在  
日年九月一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
其後在 其後在 其後在 其後在  
日年三月二十一日始行 其後在 其後在 其後在 其後在  
其後在 其後在 其後在 其後在

心視後海... 抄録...

五十五... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

三三... 年...

廿六... 年... 抄録...

廿六

廿六... 年...

廿六

廿六... 年...

廿六

廿六... 年...

廿六

西曆一千九百零九年十一月...  
 其時...  
 三月...  
 六月...  
 七月...  
 八月...  
 九月...  
 十月...  
 十一月...  
 十二月...  
 一月...  
 二月...  
 三月...  
 四月...  
 五月...  
 六月...  
 七月...  
 八月...  
 九月...  
 十月...  
 十一月...  
 十二月...

某 中山...  
 母...

某 中山...  
 母...  
 女...

中山...  
 中山...

春



未之  
仙少海集力也

系後

物部系年  
たの  
乙一良友

乃更年  
九百七拾番の場

中書房  
仙少海集力也  
中山良友



延寶七年十月の所見  
其後之三年十月の所見  
山内之長久の所見

延寶七年十月の所見  
其後之三年十月の所見  
山内之長久の所見

延寶七年十月の所見  
其後之三年十月の所見  
山内之長久の所見

延寶七年十月の所見

其後之三年十月の所見

山内之長久の所見

延寶七年十月の所見  
其後之三年十月の所見  
山内之長久の所見

延寶七年十月の所見

其後之三年十月の所見

山内之長久の所見

延寶七年十月の所見

其後之三年十月の所見

山内之長久の所見

延寶七年十月の所見

其後之三年十月の所見

山内之長久の所見

延寶七年十月の所見

西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...  
西暦の西暦入る西暦...

揚母

母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母  
揚母 江口良母

長

長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長  
長 長

中

中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中  
中 中

短

短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短  
短 短



物事

其之第 後之第

母戸白氏女

實

少長各母之弟以事子官

母

精細以事子官母

妻

竹屋長公年組 以事子官母

母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

物事

其之第

實事者 其向後分利界中より

御入之弟年三十一歳 以事子官母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

物事

其母 其母女

實事者 其向後分利界中より

母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

妻

御入之弟年三十一歳 以事子官母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

御入之弟年三十一歳 以事子官母

物事

御玉 流 糸

其 糸

廿

廿

右 糸

三 糸

年 也

亥 糸

中 糸

廿

糸 糸

糸 糸

九 糸

三 糸

好 糸

中 糸

高車村 卯辰 文子松皮 丸の内層

中山 智紋 丸の内

春紋 丸の内

中山松尾の御政の事

史記

母松尾川松尾の妻の事

文徳天皇元年生

其の事

古徳の事

松尾の事

其の事

其の事

其の事  
其の事  
其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

其の事

後  
元禄三年丁未年九月

華岡千鶴子傳後

後  
千鶴子

母

元禄三年丁未年十月

後

千鶴子傳後

元禄三年丁未年十一月

元禄三年丁未年十二月

元禄三年丁未年正月

元禄三年丁未年二月

元禄三年丁未年三月  
華岡千鶴子傳後  
元禄三年丁未年四月

後  
千鶴子

母

元禄三年丁未年五月

元禄三年丁未年六月

元禄三年丁未年七月

後  
千鶴子

母

元禄三年丁未年八月

元禄三年丁未年九月

元禄三年丁未年十月



元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

定親 乃子孫 藤井氏家系

母 乃子孫

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

物次 乃子孫 藤井氏家系

母 乃子孫

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

如天

母 乃子孫

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

母 乃子孫

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

元禄九年庚申年九月廿九日  
京都府大坂府河内郡藤井町  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系  
藤井氏家系

此年八月廿二日... 御前

御前

女

女

女

女

御前

此年八月廿二日... 御前

御前

女

女

女

女

此年八月廿二日... 御前

御前

女

女

女

御前

素  
上屋後  
中屋のり  
此等  
三所  
川邊  
信見

揚言  
西十年

母川

東家

母川

女  
母

女  
母

右邊

言

言

言

中屋

生

中山

中山

青

子  
乙一  
後  
物部信子

重信

あきつる  
信子

乃重信  
乃重信  
乃重信

中山  
乃重信



為東  
中山

先程の旨より多分、代中申御座候所  
後胤中山殿被下候御付座候事知事  
致付座候所、巨細之類も申上  
南河内丸山村中山位候与御座候  
書之由

善政 丸内 三度書  
家政 之字相成、代中の御座候  
惣政 由三三相

後付代  
物久之男

久寛

母  
書  
右  
長海海屋之政母  
之字相成、代中の御座候  
女

年月多知、以在

又申上候所、物久之郎之旨、之旨、之旨  
書有之由代

書之由、甲申、庚申、物久之旨、之旨、之旨  
右の旨、内申上候所、物久之旨、之旨、之旨

後漢書揚雄傳云子雲心以文章為之業下  
世者心之所向也子雲心之所向也子雲  
後漢書揚雄傳云子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下  
世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下  
世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下  
世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下  
世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

世者心之所向也子雲心以文章為之業下

臨

後漢書揚雄傳云子雲心以文章為之業下

吉母

新嘉坡吉母の地  
之の地吉母の地

実文

中山府吉母の地

実母

中山府吉母の地

書

中山府吉母の地

寛文二年三月一日

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母の地

吉母

吉母の地

吉母の地

次光

吉母の地

吉母

吉母

吉母の地

美文  
手拈中々文大判書

書  
抄書全巻の通紙

書  
中山公家手抄本

正徳四年甲申年一紙

有徳侯所代中山公家手抄本  
後々公家手抄本  
抄書全巻の通紙

京の御所  
丁酉年  
日年  
山

日年

日年  
抄書全巻の通紙

日年  
抄書全巻の通紙

抄書  
中山公家手抄本

抄書

抄書

宣元



春毎

実文

実母

書

新書金部の由

中山の書

月支院の書

書

書

新書十三 卷末年

新書十四 卷末年

新書十五 卷末年

新書十六 卷末年

新書十七 卷末年

新書十八 卷末年

新書十九 卷末年

新書二十 卷末年

新書二十一 卷末年

新書二十二 卷末年

新書二十三 卷末年

新書二十四 卷末年

新書二十五 卷末年

新書

新書二十六 卷末年

江州之川中事之可治者

孫元

多事

母 一女

西水以西申年... 孫元

大正

心

夫母

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

豊川氏行中川氏

寛政の三年三月一日

平井の清元寛政

初めは及ぶに及ばず

如子

中山忠元

母

つらき

と

如子

平井の清元寛政

母

中山忠元

石川氏

石川氏

石川氏

石川氏

寛政の三年

未詳

中山忠元

好 好  
心 心  
二 二  
夏 夏

東德

事  
三  
丁  
の  
目

房  
中  
九  
白  
之  
信  
書  
の  
場  
所  
を  
考  
へ

西  
方  
信  
書  
の  
場  
所  
を  
考  
へ





長子之御志

大御 御志

書

治承三年

藤原公季

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

後之御志

書 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

女 治承三年

御志

書 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年 治承三年

治承三年

治承三年 治承三年

中身合意なる久き人なり

元禄十一年三月二十一日

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

之教

後

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

高橋の... 子

後章 事材成

... 子

女 弟従 体知 悉以 信書

女 弟妻 乙種 而物 産通 書

後章 七...

書 後...

... 書

... 書

後...

... 書

... 書

... 書

... 書

女 ... 書

... 書

後...

... 書



徳山郡 後方 長 貞

元禄十二年 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

徳山郡 後方 長 貞

元禄十二年 十一月 二十日 壬子

貞子 年十五 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年

貞子 乙三年

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

貞子 乙三年 十一月 二十日 壬子

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

素方名 素方名 素方名 素方名

たし色は...  
教養...  
おのれ...  
寛政...  
中山...  
印



申...  
...

...

中山...

...

中山...

母後姓

中山氏

先從中山御下也 巡幸於長生年中  
以高御下也 長生御下也  
御侍之次也 中山御下也

家紋 虎杖

養紋 水

中山御下也  
守格

年月日

石

右傳之次也 中山御下也  
御侍之次也 中山御下也  
御侍之次也 中山御下也  
御侍之次也 中山御下也  
御侍之次也 中山御下也

御侍之次也 中山御下也  
御侍之次也 中山御下也



書

之

某

書

母

女

年月日

年月日

年月日

年月日

年月日

年月日

字

書

書

書

書

書

年月日

年月日

年月日

年月日

年月日

年月日

江名目録

守書

書

母

母

書

書

年月日家江戸也

之海二十一年江戸に於て

有過云 沖代とある也

有過云 沖代とある也

西暦四年年 江戸に於て

江名目録

新書

海名目録

女子

女子

女子

守書

母

母

書

江戸に於て

西暦四年年 江戸に於て

少書 江戸に於て

牛馬耕田の足踏り

寛保十一年三月廿七日

寛保十二年三月廿七日

英法各日敷

勘定

少集

如

寛保七年三月廿七日

寛保十一年三月廿七日

身

寛保十一年三月廿七日

三

美

書

寛保十一年三月廿七日

海

書

寛保十一年三月廿七日

書

書

寛保十一年三月廿七日

寛保十二年三月廿七日

寛保十一年三月廿七日

寛保十一年三月廿七日

清

寛保十一年三月廿七日

寛保十一年三月廿七日

嘉平 申年十月十日 訖  
嘉平 申年十一月十日 訖  
嘉平 申年十二月十日 訖  
嘉平 申年正月十日 訖  
嘉平 申年二月十日 訖  
嘉平 申年三月十日 訖  
嘉平 申年四月十日 訖  
嘉平 申年五月十日 訖  
嘉平 申年六月十日 訖  
嘉平 申年七月十日 訖  
嘉平 申年八月十日 訖  
嘉平 申年九月十日 訖  
嘉平 申年十月十日 訖  
嘉平 申年十一月十日 訖  
嘉平 申年十二月十日 訖

女子

母

嘉平

嘉平 申年七月十日 訖

女子

母

嘉平

嘉平 申年八月十日 訖

女子

母

早世

嘉平 申年七月十日 訖

克<sup>ヨシ</sup>區

嘉平

嘉平

嘉平 申年七月十日 訖

嘉平

嘉平

嘉平 申年八月十日 訖

嘉平

嘉平

嘉平 申年七月十日 訖

嘉平

嘉平

嘉平 申年七月十日 訖

嘉平 申年七月十日 訖  
嘉平 申年八月十日 訖  
嘉平 申年九月十日 訖  
嘉平 申年十月十日 訖  
嘉平 申年十一月十日 訖  
嘉平 申年十二月十日 訖





女子

母

大正

川上原之由乃書

友之實

母

海軍

中野年七三六

友之教

母

海軍

弟同

女子

母

早世

弟同

某

母

明海

弟同

石之海之世

弟同

之之百信 中野年七三六 或為有以假友之同年

實之實之房中

中野年七三六

弟同

馬

たの

五重層

五重層  
依習性

五重層  
依習性

依習性  
申す

母侯氏

中山

市右加治

久祖官地... 後流中山... 家範... 華... 彰... 中山... 信...

修教...

信...

信...

信...

信...

信...

信...

信...

中山... 信...

信...

信...

信...

信...

母

書...

信...

信...

信...

信...



左 録 正 二 三 四 五 六 七 八 九 十 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

神 國 之 社 寺 一 百 廿 九 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告

左 攝 之 正 年 十 七 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告  
口 年 月 日 三 年 二 月 廿 五 日 申 告

自... 行... 月... 年... 日... 初... 終...

成... 号... 武... 水...

石... 通... 書... 文... 及... 有... 信...

信守

母

本...

松...

也... 号... 信...

信貞

母

信...

石...

年月日... 信... 子... 母...  
 子 母  
 子 母

信

印右 六年一...

子母

信...

子母

信...

子母

信...

書

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





英地多事 与总府度册山道案

信限  
母 想号

中山道信限母

石信限 由乙亥年 月 日

部水九乙亥年 月 日 物北英地多事

号 与总府度册山道案

信限  
母

母 石信限

書 英地 与总府度册山道案

石信限 由乙亥年 月 日 物北英地多事  
部水九乙亥年 月 日 物北英地多事  
号 与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案

石信限 由乙亥年 月 日 物北英地多事  
部水九乙亥年 月 日 物北英地多事  
号 与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案  
与总府度册山道案

別度名もいへりて家内也  
 以上五年之間に言定派作らば  
 此は後中書院に於て山形侯  
 松平侯に奉りて  
 以上五年之間に言定派作らば  
 此は後中書院に於て山形侯  
 松平侯に奉りて

信利

母

中山侯康年

中山侯康年

女子

母

若世

若世

信將

知者令

信將

若世

若世

若世

若世

信州成吉思汗文信教神事の事  
又信事の流るる事  
年九月二十日

百済所成云云

改国信事  
信事の事

世宗の事  
之の事

信事の事  
改国信事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

信事の事

西水江事年三十一等之西水江事年三十一等  
之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等  
之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等

之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等  
之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等  
之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等  
之西水江事年三十一等之西水江事年三十一等

信泰

神戶御 三三三

母 貞女

書 貞女 信泰事年三十一等  
西曆一千九百一十一年三月  
昭和七年三月二十二日

信泰事年三十一等

西曆一千九百一十一年三月二十二日  
昭和七年三月二十二日  
信泰事年三十一等



レ

寛政二年丙午三月

三月廿五日

江戸府下町三丁目

三浦屋敷

三浦屋敷

三浦屋敷

三浦屋敷

三浦屋敷

三浦屋敷

信之

中山

信之

母

女子

母

女子

母

女子

女子

母

女子

女子

母

たの

百五

あまのり  
松平書院

松平  
百五  
10

東洋書院  
中山切之出

信

母

たの

たの

母

母

たの

たの

たの

たの

たの

たの

たの

中山馬

丹波院 市右加治

上右中山

足下之函承蒙示知感佩或列之而希於  
加治之居後以之天下之天賦之源  
却于中山家務回以中山村後居以之  
中山之市右加治

希之致 角之月  
希之致 角之月  
希之致 角之月

全平及代官記天官之方源  
多治氏古之より多治氏其人多官之在  
治云云代官記加治之居後以之天下之天賦之源  
中山之市右加治

照守

希之致 角之月  
希之致 角之月  
希之致 角之月

人之時人 居平年 或或之言而希於加治  
中山村之市右加治之居後以之天下之天賦之源  
中山之市右加治

今致、付知六也、手、於、除、以、自、以、時、  
十二、力、以、時、家、極、屋、中、事、氏、以、後、同、氏、之、  
須、於、登、衣、備、中、時、故、途、所、之、事、也、  
自、事、及、實、也、彼、故、云、少、事、氏、之、後、感、受、  
少、事、氏、之、法、律、城、之、於、中、所、事、者、今、致、  
之、所、也、然、以、有、取、款、之、事、務、之、事、也、  
應、之、氏、之、所、以、長、照、之、所、以、物、之、  
此、之、以、少、事、氏、之、長、氏、於、所、行、長、  
前、由、之、事、今、致、之、付、中、力、之、利、也、  
屬、之、事、所、致、也、

云、西、六、中、事、氏、少、事、氏、之、同、事、事、  
極、中、事、氏、之、所、以、政、入、也、之、事、也、  
合、法、於、是、故、也、之、事、也、  
而、事、也、之、事、也、

口、中、事、氏、之、事、也、  
口、中、事、氏、之、事、也、  
村、之、事、也、  
神、之、事、也、



此書之存方海之秘或長身摩教  
平山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書

古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書  
古法之書村之書村之書村之書

此書之存方海之秘或長身摩教  
平山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書  
中山村之書村之書村之書村之書

給事致合口内人等

以九月廿九年 亦在及以陳信年

之知知之已卯年 亦在及以陳信年

月夕亦知於江見

台江之江信義年 信年亦在

台江之亦在信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

亦在及以陳信年 亦在及以陳信年

於是以仍列之其下以見  
乃得之於其時之照寫之也  
之而之感也也 其下以見  
之也而其下以後  
口年之其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下

其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下  
其下其下其下其下其下

自備中而後乃城國之氣也  
事多不唯其御所之氣也  
口申之度之氣也  
貴之氣也  
右様之自備中乃其遺  
却中申之度之氣也  
警也 忠誓之自備中乃其遺  
信之氣也  
乃其遺也  
乃其遺也

長鐵中申之度之氣也  
乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也

乃其遺也



元禄九年の春に海軍の官給地車松村  
 新野村東平山村西平山村三村と  
 或る村舎新津尾村と海軍の村と  
 ちりん同古平と秋と白村若陽村  
 又村同古平と秋と早村と之官給  
 地ありて秋給合と之官給地あり  
 官給地は之官給地と海軍の村と  
 之官給地は之官給地と海軍の村と  
 官給地は之官給地と海軍の村と

英法右空相後了事下

書之定 御六 御中

中書省長 左大臣於女  
 口出細之 左大臣於女

萬長也之三年 或る事  
 口出細之 七年の時

古津云 御中 津月見結  
 津月見 津月見之御中 津月見之御中  
 口出細之 三年 或る事 或る事

法海傳事傳書

之相元己卯年一書其板法海傳事

中一書之板法海傳事一書其板法海傳事

首級級中板法海傳事一書其板法海傳事

之相元己卯年一書其板法海傳事

新和四百年一書其板法海傳事

之相元己卯年一書其板法海傳事

之相元己卯年一書其板法海傳事

之相元己卯年一書其板法海傳事

之相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

其相元己卯年一書其板法海傳事

英地りきりて後院の壽の英務  
出定と御座りし後院の壽の英務  
中山の壽の英務の英務

出定

母

・妻

少事

中山の英務

中山の英務

之新の已未年 江戸生

寛永の乙酉年 七也

名理云々 始云 清國の英務

寛永の乙酉年 江戸生

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

出定の英務の英務

石部公成 上三

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

卷有云西元

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也

卷有云

年月多不知於年也

年月多不知於年也

年月多不知於年也



引上りて平一と申し連代しり備言

法家布衣也

法月以備平一乃載江毎年一

令の取方たはる

法家言一と申す月日と云ふ

引上りて平一と申し連代しり備言

法月以備平一乃載江毎年一

令の取方たはる

法家言一と申す月日と云ふ

引上りて平一と申し連代しり備言

法月以備平一乃載江毎年一

令の取方たはる

法家言一と申す月日と云ふ

引上りて平一と申し連代しり備言

法月以備平一乃載江毎年一

令の取方たはる

法家言一と申す月日と云ふ

引上りて平一と申し連代しり備言

法月以備平一乃載江毎年一

之海六全中平 与一子十倍也物也  
或长新会动是村中事与一妻  
法石了知後乃中平也

卷有云

江中須戴江中須戴江中須戴  
巡撫江中須戴江中須戴江中須戴  
每年月日多知 江中須戴

江中須戴江中須戴江中須戴  
江中須戴江中須戴江中須戴  
江中須戴江中須戴江中須戴

江中須戴江中須戴江中須戴  
江中須戴江中須戴江中須戴  
江中須戴江中須戴江中須戴

五德

却

廿 江中須戴江中須戴江中須戴

江中須戴

江中須戴江中須戴江中須戴

卷有云

在江公 許金島 舟中 抄 卷之無 上 卷之

兼 牛心 丹波 舟中 抄 卷之無

實 又 江中 舟中 抄 卷之無

之 舟中 舟中 抄 卷之無

皇 天 舟中 抄

年 舟中 舟中 抄 卷之無

舟中 抄

元 舟中 舟中 抄 卷之無

後 舟中 舟中 抄 卷之無

舟中 抄 西 舟中 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

舟中 抄 舟中 抄

東華寺...  
法名...  
...  
...  
...  
...  
...  
南了かり毛  
三尾

南了摩毛 同  
吹毛 都毛  
くむ毛 同  
毛毛毛 同  
毛道毛 九毛  
同月毛 横波  
毛毛毛 都毛  
毛毛毛 同毛  
大毛毛 毛毛毛



東

母

東

東

東

東

東

母

東

東

母

東

東

東

東

東

母

東

東

東

東

東

東

東

東

東

東

東

東

東

新國の英名を言從尼尼之樹内公

出安

新島

養母

新島

實父

中山

實母

新島

實書

實母七居是年三月一日養父  
中山御之忠出巡新島  
同平下下下下中山御之忠出巡新島

新島御之忠

同平下下下下中山御之忠

海軍代輔上江

實母之西中平下下下新島  
地目居右味下度心居新島

出安

新島

養母

新島

實父

中山

實母

新島

書

皇極經世一書

皇極經世一書

年月日

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

皇極經世一書

夏文

夏母

書

中山公家文三箇

不知

多我信之長春御女

西條之辨外年一乃戶生

久又於屋中平一平心御之忠實者

極其忠實之如實之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

日年一平一平一平一平一平一平

日年一平一平一平一平一平一平

信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之

之信之信之信之信之信之信之



王教

乙未物 以也

冊

乙未物 以也

乙未物 以也

書

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也

乙未物 以也





寛政六年乙未年四月二十三日別大坂城  
由緒之流より此の如く日年より一  
日中夜に書入る 経年より一  
和暦より後日後証を各書射経年  
日之庚戌年四月二十三日於此  
左の之免は 経年より一  
於此流より後日之免は  
日之庚戌年四月二十三日  
ツル之流より一  
射年より一

日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一  
日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一  
日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一  
日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一  
日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一  
日之庚戌年四月二十三日  
於此流より一  
射年より一



江戸の伝説に依りて  
江戸の伝説に依りて  
江戸の伝説に依りて

事  
早世

母

妙子  
早世

母

春女

美しき花は水に流るる如く  
美しき花は水に流るる如く

春女  
早世

右之通

江戸の伝説に依りて  
江戸の伝説に依りて

寛政六年己未年  
中山節之忠

存  
丹

心腹書

忠孝之志

法氏  
首級後妻 塚岡書

清江傳用入  
中山書

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

之印書

冊法之類

中之有字

在彼物取印存  
皆彼由業表法唯  
日虎校  
希彼非取印存  
即中表法印存

卷中此類皆善錄氏在事多時長氏性少也  
修人更事少傳信善淨乃希信利之也善淨乃  
修習之子善高法乃修習之子善高法乃修習  
心能士誠中乃信善淨乃修習之子善淨乃  
沙方在修乃下法善乃乃長誠之類善中及有修人  
之修善丸  
不修善乃乃善修善乃乃善修善乃乃善修善乃

Handwritten text in a rectangular box, possibly a name or title.

Handwritten text in a rectangular box, possibly a name or title.

Handwritten text in a rectangular box, possibly a name or title.

Handwritten text in a rectangular box, possibly a name or title.

乃書之

一 乃復

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之

乃書之



一 二月

信定書

中山書入 信定

母 信定書

信定書 中山書

高直度原行次

兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入

高直度原行次

兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入  
兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入  
兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入

高直度原行次

兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入  
兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入  
兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入

信定書

信定書 中山書

信定書

信定書 中山書

信定書

信定書

信定書

信定書 中山書

兼通之信原平治或も終日凡く之信原  
信原の別出たりて入

信之

中

口女子 通

口女子 目

口女子 目

口女子 目

一 三

母

信之

信之

中山

信之 古

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

宣徳二年甲子三月廿三日  
口口口口口口口口口口

信興書  
少海書房

口口書  
口口口口口口口口

口口書  
中山書局

之海書房  
口口口口口口口口口口

口口子  
村口書局

口口書  
信興書

一  
口口書  
中山書局

口口書  
口口書房

口口書  
口口書房

口口書  
口口書房

口口書

口口書  
口口書房  
口口書房  
口口書房

あはれ代々名を承け奉るべき事  
り年々方々まじりて言ふ事入りて後遺之を御承り  
治人なる御承り申す候へば申す事申す事

信長様御承り  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事

信長様  
申す事  
申す事  
申す事

信長様御承り  
申す事  
申す事  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

り言  
申す事

申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事  
申す事



中宵にそらるる心哉  
春夜半の如くはるる心哉  
又もよもひの如くはるる心哉  
又もよもひの如くはるる心哉

毒 井ノ口  
毒 毒

昔は毒を食ふ事多し  
後には毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し

昔は毒を食ふ事多し  
後には毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し

昔は毒を食ふ事多し  
後には毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し  
心は毒を食ふ事多し  
心は毒を食ふ事少し

ワシニ志シヨクニシテ...

信後書

中山正徳...

口口口

中山保...

中山正徳...

口口口

中山...

中山...

中山...

口口口

口口口

口口口

中山...

中山...

回中子

信紙書 新書

同通願

新書

中山 藤松

古之國

高橋幸次郎從之

高橋幸次郎

中山 藤松

